今月のソリューション事例

沖電気

神戸製鋼所に企業内IPセントレックスシステムを納入 鉄鋼業界初の社内外フルIP電話化を実現

沖電気は、神戸製鋼所に、同社のIPテレフォニーサーバ「IP CONVERGENCE® Server SS9100」をベースとした企業内IPセントレックスシステムを納入した。本システムの納入にあたっては、NTTコミュニケーションズがシステムインテグレーションを担当し、コベルコシステムが総合コーディネートを行った。

神戸製鋼では、コベルコシステムが運用する社内情報基盤「コベルコネット」に、2002年からNTTコミュニケーションズのネットワークサービス「Arcstar IP-VPN」を採用し、事業所間の通話をIP化してきた。今回の導入は、通信コストをさらに大幅に削減するとともに生産性を向上させることを目的としたもので、沖電気のSS9100をベースとした事業所内線のIP電話化を行い、発信用回線として「050」で始まるNTTコミュニケーションズのIP電話サービス「.Phone IP Centrex」を採用して外線もIP電話化して、フルにIP電話を活用するシステムへと更改した。

企業内IPセントレックスシステムをコントロールするSS9100は、コベルコシステムの神戸センターに設置され、NTTコミュニケーションズのIP専用線経由で各拠点のIP電話機を制御する。その第一段階として、東京本社へIP多機能電話機「マルチ・キーテレフォンIP」を約2000台設置した。今後は、順次全国の拠点へ拡張を行い2008年度までには全国15ヶ所、1万台のIP電話機を利用する国内最大級のIP電話システムとなる予定である。なお、神戸製鋼最大の生産拠点である加古川製鉄所には、沖電気の大規模IP-PBX「DISCOVERY01」をベースとした一部固定電話を含め4000台におよぶ構内PHSシステムを構築し、同製鉄所内のどの場所にいても発着信が可能な利便性と、通信コストの削減を実現した。

IPソリューションカンパニー　ソリューション開発本部
TEL：03-5445-5706／
E-mail：isc-promotion@oki.com

ユニアデックス

FOMAを利用したワイヤレスIPソリューションを600台規模で自社に導入

ユニアデックスは、自社の戦略商品であるワイヤレスIP電話ソリューション「FOMA／無線LANデュアル端末対応」を、同社の本社および各事業所に導入し、3月7日から本格稼動を開始した。

ユニアデックスのワイヤレスIP電話ソリューションは、FOMA／無線LANデュアル端末「N900iL」と、高度なセキュリティ機能で定評のあるアルバワイヤレスネットワークス社製の無線LANスイッチ、そして、ネクストジェン社製国産SIPサーバを主要システムコンポーネントとして組み合わせたソリューションである。同ソリューションを利用することで、FOMA端末を社内では無線LANを利用した内線電話として、社外では携帯電話として利用することができ、これまで多くの企業が導入を進めてきた構内PHSシステムの後継になりうるコミュニケーションシステムを構築した。また、メールの送受信、登録メンバーの在・不在などプレゼンス機能、およびグループウェアや業務アプリケーションとの連携も可能となり、業務効率の大幅に向上させた。

今回、ユニアデックスは、営業を中心にN900iLを約600台配布した。これにより、無線LANアンテナを設置したエリアであれば、フロアや事業所を移動しても通常の内線としてN900iLを利用することができるため、社員同士が同じ建物にいながら携帯電話で通話を取り合うような非効率さが緩和された。

今後は、段階的に全社に導入していく予定で、年間20％の通信コスト削減を目指していく。また、「03」で始まるダイヤルイン番号をN900iLに割り当て、オフィスにいる社員が外出中の社員の固定電話を取り次ぐ時間を削減するなど、業務効率の総合的な改善にも取り組んでいく。

マーケティングコミュニケーション
TEL：03-5546-49770／
E-Mail：info-box@uniadex.co.jp

今月のソリューション事例

日立製作所

スーパーテクニカルサーバ「HITACHI SR11000」が東京大学情報基盤センターで稼働開始

日立製作所 情報・通信グループは、スーパーテクニカルサーバ「HITACHI SR11000 モデルJ1」を東京大学情報基盤センターに納入し、３月22日から稼働を開始した。本システムは、全国の大学・研究機関に対して大規模な計算サービスを提供するもので、最大理論ピーク性能約5.35 テラフロップス(*)、総メモリ容量5.5 テラバイトという、国内有数のスーパーコンピュータシステムである。さらに本システムは、２年後に、最大理論ピーク性能16テラフロップス以上、総メモリ容量16テラバイト以上のシステムにする計画である。

今回納入されたシステムは、1999年３月に東京大学情報基盤センターで運用を開始した「HITACHI SR8000」の後継として、同センターのスーパーコンピューティング部門に設置された。本システムは、１ノード当たり16プロセッサの44ノードで構成されており、従来機種のSR8000に比べて、最大理論ピーク性能は5.3倍の約5.35 テラフロップスに、総メモリ容量は5.5倍の5.5 テラバイトに、システム全体のノード間ネットワークの最大転送速度は4.1倍の約1.1テラバイト／秒に増強されている。また、各ノードを論理的に分割して、1ノードを仮想的に複数のノードとして使用できるノード仮想化機能により、本システムを仮想的に1ノード当たり８プロセッサで88ノードのシステムとして運用することができる。これにより、１ノード当たり8プロセッサである従来機種のSR8000で最適化しているプログラムをリコンパイル（ソースプログラムからコンパイラによりオブジェクトプログラムを再生すること）するだけで、本システムの計算性能を十分に引き出すことが可能となり、SR8000と同様の利用環境を提供できる。

＊1テラフロップス：浮動小数点演算1秒間に1兆回実行する能力

情報・通信グループ　エンタープライズサーバ事業部
TEL：0463-87-6786

NEC／NECフィールディング

厚木市に一元的な利用者認証を実現した「統合セキュリティネットワーク」を導入

NECとNECフィールディングは、神奈川県厚木市に、職員が利用する約1700台のパソコンの利用者認証から、市役所・小中学校・公民館といった約100拠点を結んだ庁内ネットワークへの接続認証、文書管理・電子決裁・財務会計・庶務管理などの基幹業務システムの利用者認証を職員証ICカードによる個人認証に一元化した「統合セキュリティネットワーク」を導入した。

厚木市の統合セキュリティネットワークは、本年4月の個人情報保護法の全面施行を踏まえ、パソコンからの情報の持ち出しやネットワークへの不正アクセスによる情報漏えいなどを防止し、業務システムだけでなく、ネットワークまでを含めたシステム全体でより堅牢なセキュリティを実現することを目的としたものである。また、本ネットワークは、本年２月の厚木市制50周年を記念して行った「電子市役所宣言」の中核となる「総合行政情報システム」の基盤ネットワークに位置づけられるものである。電子決裁・文書管理・財務会計・旅費管理・出退勤管理・入退出管理・グループウェアなどの各種業務システムとの連携を可能とし、事務処理の迅速化・効率化やペーパレス化と、職員証ICカードを活用した厳格な個人認証によるセキュリティ強化の両立を実現した。

本ネットワークは、NECのLANスイッチ「UNIVERGE QXシリーズ」約300台と認証サーバ「UNIVERGE RD1000」、デスクトップセキュリティソフト「SmartOn NEO」などを連携して構築されている。主な特長は次のとおり。

- パソコン・庁内ネットワーク・業務システムなどの統合セキュリティを実現
- 業務処理の迅速化・システム利用者の利便性とセキュリティ強化の両立を実現
- 効率的なシステム運用管理を実現

NEC　公共ソリューション事業部
TEL：03-3798-2904

CTC／サン・マイクロシステムズ／日本オラクル

愛知万博で使用されているハイブリッド情報端末「愛・MATE」のシステム構築を担当

伊藤忠テクノサイエンス（CTC）とサン・マイクロシステムズ、日本オラクルの３社は、３月25日から開催された愛知万博（2005年日本国際博覧会／愛称：愛・地球博）の会場内で使用されている、KDDIが企画・開発を行ったハイブリッド情報端末「愛・MATE」のシステム構築を担当した。

愛知万博は、名古屋東部丘陵（長久手町・豊田市、瀬戸市）にて、2005年３月25日から９月25日まで半年間にわたって開催される。広大な会場に多数の来場者が想定されるため、開催にあたり、万博の会場スタッフは運営本部との連携をはじめ、来場者に対して会場案内やパビリオンの混雑状況の案内など、会場運営を円滑に行うことが課題となっていた。ハイブリッド情報端末「愛・MATE」の使用も、この課題解決の一環である。

CTCとサン・マイクロシステムズ、日本オラクルの３社は、KDDIのからの受託により、パビリオン出展企業や運営スタッフが使用するハイブリッド情報端末「愛・MATE」を提供する際の入出庫やアドレス帳の管理を行う「端末管理システム」や、「愛・MATE」から各種情報にアクセスするための「ネットワークシステム」、および「メールシステム」の構築を担当した。端末管理システムでは、各端末の使用状況や入出庫の管理を行うとともに、インターネット接続などのセットアップ情報やアドレス帳などのダウンロード環境を提供。メールシステムでは、これらの情報を携帯型情報端末のメールで閲覧することを可能にした。これらのシステムはASPサービスとして提供されている。愛知万博の運営スタッフは、KDDIの3Gモバイルネットワークや無線LANネットワークを介してこれらシステムにアクセスし、来場者に対し円滑かつリアルタイムな情報提供を行っている。

CTC　コーポレートコミュニケーション部
TEL：03-6203-4100／
E-mail：press@ctc-g.co.jp

マイクロソフト

名古屋銀行が次期統合データベースシステムに「SQL Server 2005」を採用

マイクロソフトは、名古屋銀行が2005年に構築を予定している次期統合顧客情報データベースおよび分析システム（以下、次期システム）に、2005年下半期に予定している同社の次世代統合データマネジメント・分析プラットフォーム「Microsoft SQL Server 2005」を採用することを発表した。名古屋銀行は、次期システムにおいて、UnixおよびOracle製品で稼動している現統合顧客情報データベースシステムを、Windows Server 2003およびSQL Server 2005へ移行し、同時にSQL Server 7.0、およびSQL Server 2000で稼動する複数のシステムをSQL Server 2005に移行することで、SQL Server 2005を中核とした顧客情報管理の基盤データベースの構築を目指している。

名古屋銀行は、SQL Server 2005を採用した次期システムを構築することにより、顧客情報のより高い機密性を確保するとともに、経営方針である「お客さまのニーズに適合した金融サービスの提供」をより高度に実践するための環境を整備して、「選ばれる銀行」を目指していく。また名古屋銀行は、米国マイクロソフトがワールドワイドで実施しているTechnology Adoption Programに、SQL Server 2005 ベータ2の提供に合わせ、アジア圏の１社として選出されている。これは、名古屋銀行が予定しているシステムの規模と技術力が評価されたもので、同時に、次期システムにSQL Server 2005を適用することで、マイクロソフトのSQL Server 2005の製品開発過程における品質向上への協力も行っている。

マイクロソフトは、名古屋銀行に対して、マイクロソフトコンサルティングサービスを通じて高度なコンサルティング・導入支援を行い、さらにサポート部門によるサポートサービスを提供して、次期システムへのSQL Server 2005の導入を全面的にサポートしていく。

マイクロソフト
Webサイト：http://www.microsoft.com/japan